

令和5年12月熊取町議会定例会 請願文書表

請願第1号	加齢性難聴者の補聴器購入の公的助成等を求める請願書
受理番号	R05熊議第000242号
受理年月日	令和5年11月20日
請願の要旨	<p>(1) 加齢性難聴者の補聴器購入について、町による公費助成を実施してください。また、制度の創設に努めてください。</p> <p>(2) 加齢性難聴者の補聴器装着は国民的な課題であり、自治体負担を抑制するために国と大阪府に補聴器の公的助成制度の創設を要請してください。</p>
請願者の住所 及び氏名	熊取町大久保南5丁目1-23 くまとり社保協 会長 大浦 正義 ほか2名
紹介議員氏名	坂上 巳生男 文野 慎治
付託委員会	事業厚生常任委員会



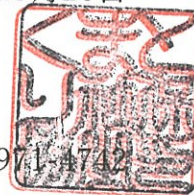
2023年11月20日

熊取町議会議長 河合 弘樹様

加齢性難聴者の補聴器購入の公的助成等を求める請願

代表,

くまとり社保協 会長 大浦 正義 Tel090-3971-4742



住所 熊取町大久保南5丁目1-23

新日本婦人の会 熊取支部長 米田 芳子

全日本年金者組合 阪南東支部長 濱崎 海雄

紹介議員 (署名または記名押印)

坂上 巳生男

文野 慎治

2023年11月20日

熊取町議会議長 河合 弘樹様

加齢性難聴者の補聴器購入の公的助成等を求める請願

代表 くまとり社保協会 会長 大浦 正義 TEL090-3971-4742

住所 熊取町大久保南5丁目1-23

新日本婦人の会 熊取支部長 米田 芳子

全日本年金者組合 阪南東支部長 濱崎 海雄

(請願の趣旨)

我が国は少子高齢化が進み、超高齢社会になっています。日本老年医学会資料では「加齢による難聴者は65歳以降、急激に増加しており70代後半では男女ともに約7割が難聴になる」と報じました。また、「難聴は認知症の危険因子の一つだ」と厚労省作成の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)でも指摘し、加齢性難聴と認知症の関係性が明らかになっています。

高齢者が加齢性難聴になっても生活の質を落とさず、家庭や地域での社会的な交流と活動による健康な暮らしを継続するために適切な補聴器をつけることは不可欠です。それは認知症予防と医療・介護費抑制につながります。

健康長寿を望む高齢者の意識の高まりのなかで、補聴器への社会的関心は急速に広がっています。しかし、難聴には多様性があり、各人の個性に応じる適切な補聴器(管理医療機器)の価格は片耳10万円~30万円、両耳装着が望ましく実質2倍の高額になります。しかも、保険適用外のために少ない収入で全額自己負担という厳しい現実があります。

こうした状況を背景として加齢性難聴者が補聴器を購入する際に、自治体による補聴器購入助成が急速に広がっています。ここ2年余りで自治体独自の公的助成が全国的には約5.5倍に広がり、2023年9月1日現在では全国の自治体192市区町村で実施され、大阪府下でも広がっています。(全日本年金者組合大阪府本部調査)

補聴器購入について熊取町による公的助成の実施等を求める下記の事項を請願いたします。

(請願の項目)

1. 加齢性難聴者の補聴器購入について、町による公費助成を実施~~して~~してください。また、制度の創設に努めてください。
2. 加齢性難聴者の補聴器装着は国民的な課題であり、自治体負担を抑制するために国と大阪府に補聴器の公的助成制度の創設を要請してください。

以上